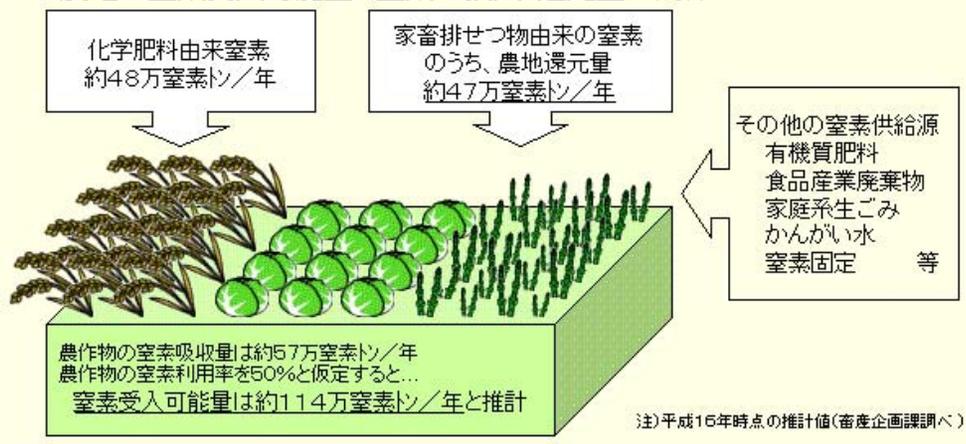


家畜ふん尿由来のたい肥や飼料需給構造等 食品リサイクル製品に係る全体のマスバランス

平成18年9日
農林水産省総合食料局

家畜排せつ物由来のたい肥の需給

○農地の窒素受入可能量と窒素の投入・還元量の関係

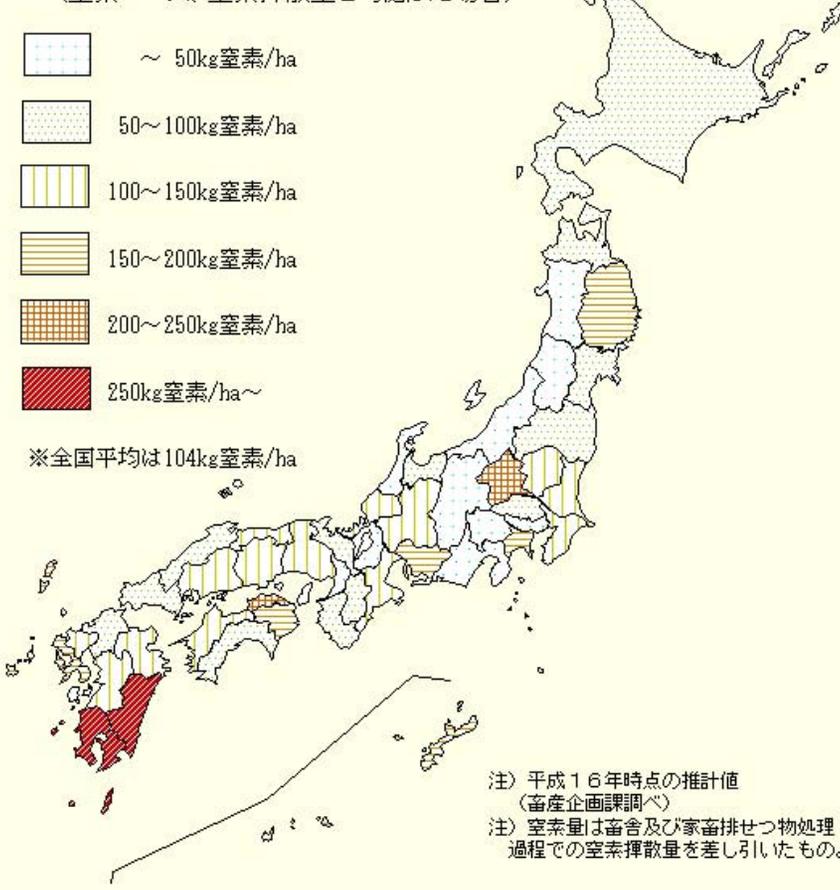


農地への窒素還元量と農地の窒素受入可能量を、全国的なベース（マクロベース）で比較した場合、たい肥等の農地還元は全国的な収支でみると可能という結果も得られる。

しかし、家畜排せつ物の発生量と還元可能な農地面積との関係は、地域によって異なっているのが実態である。

特に、南九州等畜産の盛んな地域では、還元可能な農地面積に比べて家畜排せつ物の発生量大きい状態と見られ、そのような地域では、域内のたい肥需要の拡大だけでなく、域外での利用促進や農地還元以外の高度利用の推進が課題となっている。

○耕地面積当たりの家畜排せつ物発生量
(窒素ベース、窒素揮散量を考慮した場合)



飼料の需給 (可消化養分総量(TDN)ベース)

(単位:千TDNトン、%)

区 分		平成2 年度	7	9	13	14	15	16	17 概算	
需 要 量		A	28,517	27,098	26,496	25,373	25,713	25,491	25,107	25,080
供 給	粗 飼 料	B	6,242	5,912	5,761	5,573	5,663	5,387	5,565	5,414
	うち国内供給	C	5,310	4,733	4,518	4,350	4,394	4,073	4,194	4,099
区 分	濃 厚 飼 料	D	22,275	21,186	20,735	19,800	20,050	20,104	19,542	19,666
	うち純国内産原料	E	2,187	2,239	2,152	1,995	1,948	1,897	2,182	2,218
諸 率	純国内産飼料自給率 (C+E)/A		26	26	25	25	25	23	25	25
	純国内産粗飼料自給率 C/B		85	80	78	78	78	76	75	76
	純国内産濃厚飼料自給率 E/D		10	11	10	10	10	9	11	11

(出典)「作物統計」、「耕地及び作付面積統計」、「畜産物生産費」、「畜産統計」、「日本標準飼料成分表」、財務省「貿易統計」、農林水産省畜産部畜産振興課調べ

注1: 濃厚飼料の「うち純国内産原料」とは、国内産に由来する濃厚飼料(国内産飼料用小麦・大麦等)であり、輸入食料原料から発生した副産物(輸入大豆から搾油した後発生する大豆油かす等)を除いたものである。

2: 「食料・農業・農村基本計画」において平成27年度に純国内産飼料自給率を35%とする目標を設定。